

2013 年度統計関連学会連合第 2 回理事会・組織委員会 議事録

日時：2013 年 9 月 11 日（水）統計関連学会連合大会終了後（15:15～16:15）

場所：大阪大学 豊中キャンパス 文法経本館 1 階 多目的室

出席者：

【学会連合理事】

（一社）日本統計学会 鎌倉稔成、岩崎学 応用統計学会 瀬尾隆  
日本行動計量学会 岩崎学 日本計量生物学会 椿広計  
日本計算機統計学会 栗原考次、石橋雄一 日本分類学会 今泉忠、竹内光悦

【連合大会実行委員】大屋幸輔（委員長）、大森裕浩（次期委員長）

【連合大会運営委員】佐藤美佳（委員長）、山田剛史（副委員長）

【連合大会プログラム委員】栗原考次（委員長）、西郷浩（副委員長）

【幹事】小椋透

欠席者：

（一社）日本統計学会 国友直人（委任状あり）

応用統計学会 川崎茂（委任状あり）

日本行動計量学会 菊地賢一（委任状あり）

日本計量生物学会 大橋靖雄（委任状あり）

配布資料

1. 2013 年度統計関連学会連合第 2 回理事会・組織委員会 議事次第
2. 2013 年度統計関連学会連合第 1 回理事会・組織委員会 議事録

【前回議事録確認】（配布資料 2）

榊理事より、2013 年度統計関連学会連合第 1 回理事会・組織委員会議事録が報告された。

注意：議事録は第 1 回開催時時点であり、現時点では、2014 年度連合大会の日程は 9 月 13 日～9 月 16 日、文科省数理科学セッションの名称は「数学・数理科学と諸科学・産業との協働によるイノベーション創出のための研究促進プログラム」である。

【審議事項】

1. 監事承認

2012 年度連合大会運営委員長の瀬尾理事が推薦され、承認された。

2. 副理事長の選出

岩崎理事が推薦され、承認された。Web 担当の久保田貴文氏へ報告する。

### 3. 2015 年度以降の開催校の選定について

2015 年度は岡山大学にお願いすることを決めた。

2016 年度の開催場所は、信州大学、富山大学、金沢大学を候補地とする。

### 4. 2014 年度連合大会について

#### [1] 開催校からの報告

大森次期実行委員長より、開催期間は 2014 年 9 月 13 日（土）～9 月 16 日（火）とし、チュートリアルと市民講演は 9 月 13 日（土）に行う。場所は東京大学経済学部から教育学部、医学部の変更を予定している（経済学部の建物が補修工事を行われることが決まったら教育学部、医学部へ変更する）。現在、120 名以上収容の教室を 6 教室確保しているが、8 教室確保することを目標に教室探しをしている。懇親会の会場は学会場所から徒歩 3、4 分の山上会館とする。懇親会の参加人数は最大 200 名で予定している。

#### [2] 参加組織の確認

これまでと同様に、日本統計学会、応用統計学会、日本行動計量学会、日本計量生物学会、日本計算機統計学会、日本分類学会の 6 学会共催とする。

#### [3] 組織委員会について

##### (1) プログラム委員会

委員の選定は、各学会は 1 名または 2 名の委員を推薦することが確認された。西郷次期プログラム委員長は、推薦された委員の中から副委員長（次期委員長）を推薦し、鎌倉理事長へメールで報告することが確認された。

##### (2) 実行委員会

実行委員の選定は大森次期実行委員長に一任し、理事会で報告することが了承された。

##### (3) 運営委員会

委員の選定は、各学会は 1 名または 2 名の委員を推薦することが確認された。山田次期運営委員長は、推薦された委員の中から副委員長（次期委員長）を推薦し、鎌倉理事長へメールで報告することが確認された。

### **【報告事項】**

#### 1. 2013 年度プログラム委員会報告（栗原理事）

栗原プログラム委員長より、次のことが報告された。委員会は 15 名で構成し、2 度の会議とメールを用いて準備を行った。企画セッション数は 17 セッション、講演件数は 324 件、コンペティションでは最優秀賞 3 名、優秀賞 3 名の表彰を行った。

#### 2. 2013 年度運営委員会報告

佐藤運営委員長より、次のことが報告された。委員会は14名で構成し、1度の会議とメールを用いて準備を行った。参加者数は741名（事前登録525名、当日申込216名）で昨年より約90名多い参加であった。チュートリアルセッションの参加者数は238名（事前登録189名、当日申込49名）で昨年より約40名多い参加であった。

### 3. 2013年度実行委員会報告

大屋先生実行委員長より、次のことが報告された。保育所について、外注による施設内設置又は外部の保育所の案内の2本立てを予定していたが、保育室の利用者がいなかった。保育室に予定していた費用は会場内の看板設置に用いた。問題点として、ビッグデータの会場が満員であったこと、プロジェクタ不調が生じたが、その他は問題なかった。

### 4. その他

#### [1] 2014年度統計関連学会連合大会予稿集

学会ごとに来年度の予稿集への学会名の記載方法を確認する。変更希望がなければ、2013年→2014年のみの変更とする。

#### [2] 理学・工学分野における科学・夢ロードマップについて

理学・工学分野における科学・夢ロードマップ（日本数学会、統計関連学会連合、日本応用数理学会共催）のプロジェクトの統計関連学会連合の代表の栗木哲氏より、現在、日本数学会の作成資料をベースに、統計関連学会連合、日本応用数理学会が追記を行っている。統計関連学会連合としての追記内容を考えてもらいたいとの要請があった。鎌倉理事長よりHPのURLをメールで連絡する。

#### [3] 平成26年度科学研究費助成事業の変更点について

基盤研究(B)及び基盤研究(C)の新作分として「特設分野研究」が新たに設置されて、平成26年度公募では、「ネオ・ジェロントロジー」、「連携探索型数理科学」、「食糧循環研究」の3分野がある。

#### [4] 行動規範

椿理事より、日本計量生物学会の佐藤前会長から統計関連学会連合へ行動規範の承認をお願いされていることを報告された。行動規範を椿先生からメールで各理事へ連絡するので、中身を確認して賛否の連絡をお願いされた。日本計量生物学会は承認し、統計関連学会連合としての文面には時間を掛けるという対応も可である。

(文責：小椋 透)